

## 令和6年度 授業改善推進プラン（小学校・専科教員用）

福生市立福生第一小学校

ひまわり学級	
児童の実態	<p>○1年生4名、2年生4名、3年生6名、4年生7名、5年生5名、6年生3名の計29名が在籍している。</p> <p>○児童の特性は軽度発達障害や自閉症スペクトラム症、注意欠陥多動症、運動機能障害、ダウン症、情緒面の不安定さなど様々である。</p> <p>○授業へ取り組む態度は、積極的な児童や自分の意見を我慢できずに発言してしまう児童、なかなか自分の考えがもてなかったり発言したりできない児童など様々である。</p> <p>① 集中して話を聞くことができない児童がいる。（全員ではないが全学年）</p> <p>② 自分の考えや意見をもつことやもっていても表現することが難しい児童がいる。（低学年に数名）</p> <p>③ 自分が困ったときや分からないことがあったときに支援要求を出せない児童がいる。（低学年を中心に数名）</p> <p>④ 児童の特性上、学習したことを定着させるのに時間を要する。または、時間が経つと忘れてしまうことがある。（全学年）</p>
児童の実態を踏まえた授業改善の取組	<p>① 言葉のみの説明では集中を維持することが困難だったり、話の内容の理解が不十分になってしまったりする児童が多いので、視覚的な情報を交えて指導や説明をする。</p> <p>② 質問の内容が理解できなかったり、語彙力が不十分のために自分の思いを説明できなかったりする児童がいるので、児童との対話を重視し、必要に応じて教員が児童の思いを代弁し問いかけてみたり、視覚的な資料や情報を提示して、児童が言葉だけでなくジェスチャーや資料を使って自分の思いを表現できるようにする。</p> <p>③ 指導補助やTTの教員と連携して、児童の様子を観察し把握できるようにする。必要に応じて教員から言葉を掛けたり、カードによって支援要求が出せるようにしたりする。また、授業の中でも支援要求が出せることの大切さを伝え、実践できるように指導していく。</p> <p>④ 学習したことを定着させるために、毎日記入している連絡帳に、個に応じた学習課題を載せ、毎日少しずつ取り組めるようにする。また、一度学習したことも、問題の内容や数字等を少しだけ変えて、繰り返し学習する。時間が経つと忘れてしまう児童に対しては、一度完了した課題も、時間を空けて定期的に取り組ませることで定着を図る。</p>